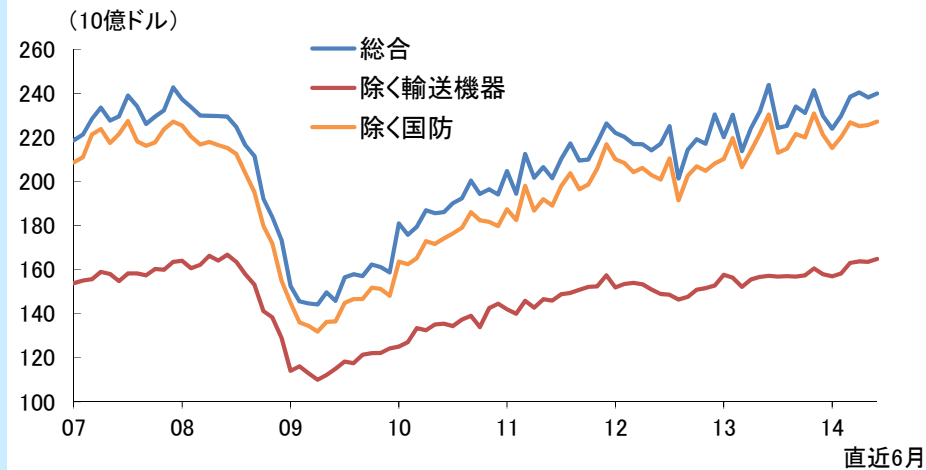


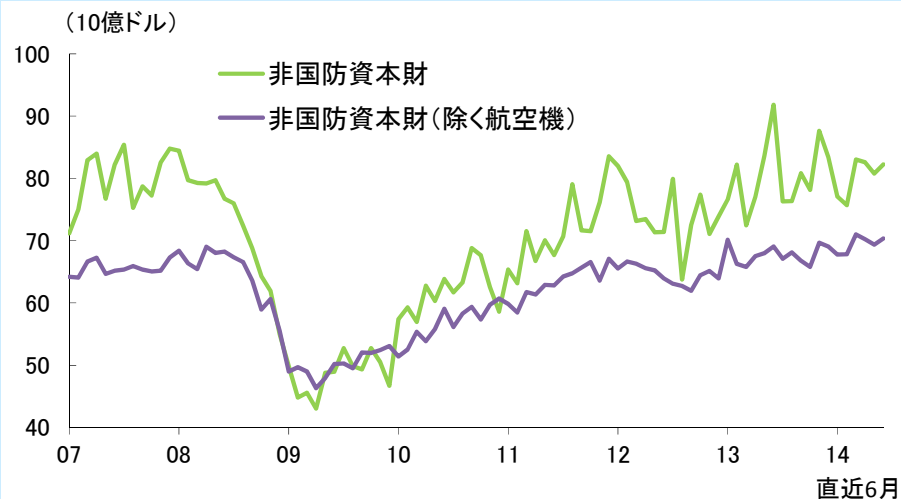
米国：耐久財受注（2014年6月）

MRI Daily Economic Points
July 28, 2014

図表1 耐久財受注の推移



図表2 非国防資本財受注の推移



資料：米商務省

評価ポイント

今回の結果

- 6月の米耐久財受注は、前月比+0.7%の増加。振れの大きい輸送機器を除いたベースでみても、同+0.8%の増加となった。
- 内訳をみると、電気機械(同▲0.2%)、金属加工製品(同▲0.2%)などが減少した一方で、機械(同+2.4%)、コンピューター関連機器(同+0.8%)、輸送機器(同+0.6%)などが増加した。
- 設備投資の先行指標とされる非国防資本財受注(除く航空機)も同+1.4%の増加と、3ヶ月ぶりにプラスとなった。

基調判断と今後の流れ

- 米耐久財受注は、やや持ち直している。14年以降の受注額は月平均2,351億ドルと13年(同2,291億ドル)を上回る水準となっている。
- これまで良好な収益環境や低金利にもかかわらず、米企業の新規の設備投資に対する慎重な姿勢が続いてきたが、足もとでは、内需の堅調さと稼働率の緩やかな上昇を背景に、設備投資に持ち直しの動きがみられる。
- ISMの新規受注指標をみても、製造業・非製造業ともに拡大・縮小の分岐点である50を上回る水準で底堅く推移している。
- FRBの「地区連銀経済報告(ベージュブック)」(7/16日公表)でも製造業部門の拡大が全地区で報告されており、先行きの設備投資は緩やかな増加基調を予想する。
- ただし、量的緩和終了(10月末のFOMCで決定される見込み)や11月の中間選挙が近づくにつれて政策の不確実性が高まり、企業マインドの低下を通じて、企業が投資活動を手控える可能性には留意が必要である。